

## 秋季研究発表会ルポ

林 亜 夫

会員諸兄，事務局の皆様方のご協力により，1981年度秋季研究発表会を筑波大学におきまして無事終了することができました。紙面を借りてご参加，ご協力いただいた皆様方にお礼申し上げますと同時に，大会ルポと称して大会準備中そして会期中の徒々話をご紹介して，研究発表会を締めくくりたいと思います。

筑波研究学園都市には，正確に数えたことはありませんが，学生会員を含めて数十名の会員がおられ，その中でも筑波大学には約20名ほどの会員が集中しています。しかし，われわれ全員ある意味で新参者であり，大学を含めて研究学園都市全体について知らないことも多く，発表会を開催することに一抹の不安がありました。そのため本年度のはじめから，渡辺浩先生を実行委員長として，定期的に委員会を開催し，準備を始めました。

実行委員会が一番問題となったことは，大会参加者数の予測と参加者の会場への誘導ということでした。というのは，研究学園都市が特異な立地条件と都市形態をもっているためこれらの件に関しては従来どおりの方法ではうまくいかないだろうという危惧があったからです。

参加者数の予測では，研究学園都市に立地する新構想大学・筑波大学ということで，ものめずらしいさも手伝って大会史上最高の参加者があるという楽観論と，東京からの地の利の悪さ，宿泊施設の不足からそれほど多くの参加者を見込めないという悲観論が出て，第1回目の実行委員会から紛糾しました。

そこで少しでもOR的な方法で予測しようということになり，さっそく過去の参加者データをとりよせ，開催場所と時期との関係を分析(?)し，さらに実行委員会全員のアンケートをとって(デルファイ法とまではいかない)，エイヤッと320~340名という数字をはじき出しました。結果は270名強で，かなり予測を下回った(というより予測が当らなかった)ことは否定できません。

また懇親会，見学会の参加人数は過去のデータと経験から，それぞれ60名，50名と見込みましたが，懇親会に

はやし つぐお 筑波大学 社会工学系

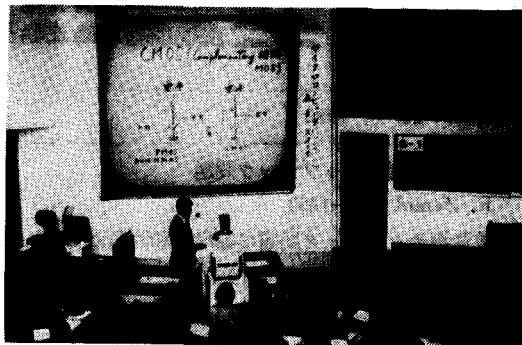


写真1 特別講演

ついては，大学から1歩外へ出ても飲食できる場所がわからない，あるいはたとえわかってそこへアクセスできないこと(車がなければ無理)，そしてまた見学会については，今世紀最後の一大国家プロジェクトといわれる研究学園都市の見学ということ，双方とももっと多くの参加者があるだろうというのが，大方の実行委員の予想でした。案の定懇親会は予測をはるかに上回る90名もの参加をみましたが，見学会のほうは，わずか29名の参加申し込みしかありませんでした。

これらの予測の狂いは，学園都市にすでに慣れ親しんでしまっているわれわれにとって，それほど不自由に感じていない立地条件，都市施設の整備状況が，外部からみると思ったより重大な問題であること，そしてまた研究学園都市自体も，会員の人々にとってそれほど目新しいものではなくなっていることに対するわれわれの認識の甘さによるもので，遅まきながら深く反省しております。

次に問題となったのは会場への参加者の誘導でした。なにしろ学園都市は広大であるばかりでなく，大学には門がないので，大学施設がどれなのかも外来者にはわかりにくくなっています。そして距離感が歩いて何分というより，車で何分という感じですので，1度目的地にいきそこなうことは，道に迷うということではなく，身動きがとれなくなることに等しいといえます。それ故バスの乗降を1度誤ると1~2時間はロスすることも少なくありません。また目的地の近くまで到達していても，歩いている人はほとんどいませんし，公衆電話も少ないため，はじめて来筑された方はたいへん苦勞されます。

このようなことから，会場にアドバルーンを高々と上げたらどうか，あるいは都市内に案内人を散らばらせた

らどうかといろいろ議論されました。結局、運営管理、費用の制約から、土浦駅と荒川沖駅でバスの乗降案内ビラをまき、あとは学内各所に看板を出すという方法で対処することになりました。今思えば、アドバルーンでも高々と上げておけば、その効果はともかく、学会史上に残る快挙(?)になったかも知れないと思っています。

さて、研究発表会の当日はあいにく雨にたたられ、肌寒い最悪の天候になってしまいましたが、発表開始時刻には、座長、発表の方々もほぼ来場され、無事開始にこぎつけました。しかしながら最初の発表への参加者の出席が若干悪く、発表者の方々にはご迷惑をおかけしたと悔んでおります。やはり会場に到着するまで苦勞された方が多かったようで、この紙面を借りてお詫び申し上げます。

というのも周到な準備をしていたつもりでも不測の事態はおこるもので、土浦駅で案内ビラをまくことになっていた学生が突然病気になる、その連絡が手違いでいきとどかず、結局土浦駅に降りた会員の方々には1枚も案内ビラが配られなかった事態がおきてしまいました。また学内の案内表示も不十分であったというご指摘がありました。かなりの量そして大きさのビラを掲示したつもりでしたが、何分道路の幅員、フリースペースの大きさ等、都市空間のスケールが日本の通常の都市とかけはなれているため、現場に看板をもっていくと周囲の空間に吸い込まれてしまう感がありました。いずれもOR学会の会員として、前者については信頼性管理、後者については現実に即して問題を解決するという点で落第といえそうで、反省している次第です。

以上あまり自慢できないお話ばかり紹介しましたが、発表会場については各会員の方々に好評であったと思っております。単に建物が新しく美しいということだけでなく、会場、特に特別講演会場、談話室、展示会場等の設備、備品が整っていることに驚かれた方も少なくなかったのではないかと思います。各会場となった教室には平時から最新式の自動ズームOHPが備えられており、学会用として別途用意する必要はありませんでしたし、特別講演の会場は、ボタン1つでOHP、スライド等のスクリーン、照明のコントロールができる階段教室を利用することができました。またマイコンの展示室、談話室、ペーパー・フェアの会場も十分使いこなし、会員諸兄の皆様方に満足していただけたと、実行委員一同自負しております。通常これらの施設は学生が使用している

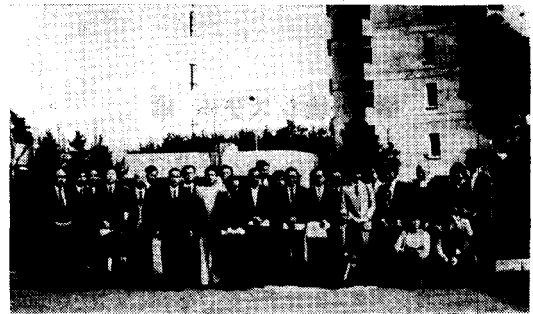


写真 2 国立公害研究所見学会

もので、本大学の学生はずいぶん恵まれているとお思いの諸兄も多かったと存じます。

また懇親会は前述したように、他にいくところがないという学園都市の特殊条件が影響したのかも知れませんが、いままでになく盛況で、夜遅くまで賑やかに談笑の輪が広がっていきました。

一方見学会は参加者の数は少なかったのですが、前日とは打って変わって、学園都市から遠く日光の山々まで望める好天に恵まれ、有意義な時間を過ごせたと思っております。見学会の目玉である国立公害研では、お忙しい中を近藤次郎所長みずから研究所のご説明をしていただき、すばらしい研究施設を拝見させていただきました。午後からは研究学園都市全体をほぼ1周し、都市の概要を見学していただきました。研究機関等の組織だけでも43ほどあり、かつまた広大な学園都市全体を1日でご理解いただくことは到底無理でしたが、現在の都市の状況を身をもって体験していただき、ほぼ見学会の目的は達成できたと思っております。

前述したように、現在の学園都市にはいろいろ問題がありますが、数年後にはすばらしい都市に成長すると思えます。大会にご参加いただけなかった会員諸兄の皆様方も、次回の大会あるいは昭和60年の科学技術博覧会には、ぜひとも来筑されることをお願い申し上げます。

最後に、大会を運営するに当り、学会外部から、ご援助ご協力いただきました特別講師の先生方、さらに筑波大学職員、技官、学生の方々、また貴重な研究時間をさいて公害研をご紹介くださった公害研研究員の方々、そしてマイコン展示に参加していただいた業者の方々に、この紙面を借りてお礼申し上げ、筆をおきたいと思えます。ご協力ありがとうございました。

(筑波より)